

し き し
志 木 市 遺 跡 群

VI

1 9 9 5

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長 秋山太藏

このたび、平成4・5年度の志木市遺跡群発掘調査の成果を報告書として刊行することができたことを喜ばしく思います。

志木市は、埼玉県南東部に位置し、市域の地形は大まかに、南西部が武蔵野台地、北東部が荒川の形成した沖積地となっています。そして、台地の縁辺部を中心に埋蔵文化財の包蔵地が少なからず存在しています。また、近年、馬場・宿遺跡のように荒川低地の台地下でも、遺跡が存在することが徐々にわかってきました。

こうした包蔵地は、平成5年度に新規に登録された大原遺跡を加え、現在市内に西原大塚遺跡など16ヶ所をかぞえ、これからも増える可能性があります。

本来、これらの貴重な文化財は現状のまま後世に伝えるのが望ましいのですが、土木工事等で現状保存が困難な場合は、代替措置として記録保存のための発掘調査を行うことになっております。

しかし、事業者が個人であって、その者が専用に用いる住宅建設などは、発掘調査の費用負担などについて、困難な問題がありました。そのため、昭和62年度からは国庫及び県費の補助金の交付を受けて調査を進めております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、文化庁・埼玉県教育委員会ならびに地元の多くの方々のご指導に深く感謝するとともに、本書を郷土の歴史研究のために広く活用して頂ければ幸いに存じます。

例 言

1. 本書は、埼玉県志木市内に所在する遺跡群の、平成4・5年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け、平成4年度は平成4年4月1日より平成5年3月31日まで、平成5年度は平成5年4月1日より平成6年3月31日まで実施した。
3. 本書の作成は、志木市教育委員会が行い、編集・執筆は尾形則敏が担当した。
4. 挿図版の作成は、深井恵子・尾形が行い、太田敦子・星野恵美子の協力を得た。
5. 遺物の実測は、尾崎美智子・星野恵美子が行い、トレースは深井が行った。
6. 本書の遺構・遺物の挿図版の指示は、以下のとおりである。
 - 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
 - 遺構挿図版中の水糸レベルは、海拔標高を示す。また、ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。
 - 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示し、その番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
 - 遺構の略記号は、以下のとおりである。
H＝古墳時代・平安時代住居跡 D＝土坑
 - 遺物挿図版中の網点スクリーントーンは、赤彩範囲を示す。
7. 調査組織
調査主体者 志木市教育委員会
担 当 課 生涯学習課
教 育 長 秋山 太藏
教 育 総 務 部 長 星野昭次郎
生涯学習課長 並木 勝司
生涯学習課長補佐 山中 満
文化財保護係長 岡本 孝
文化財保護主査 佐々木保俊
文化財保護主任 尾形 則敏
文化財保護主事 今野 美香
8. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。
埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課・埼玉県立博物館・埼玉県立歴史資料館・埼玉県立さきたま資料館・志木市立郷土資料館・志木市立志木第三小学校・志木市立宗岡小学校
会田 明・浅野晴樹・麻生 優・荒井幹夫・飯田充晴・石井 寛・井上洋一・岩本克昌・梅沢太久夫・岡田威夫・岡本東三・織笠 昭・織笠昭子・片平雅俊・倉沢和子・栗島義明・小出輝雄・肥沼正和・小滝 勉・小宮恒雄・笹森健一・斯波 治・白石浩之・実川順一・

鈴木一郎 ・鈴木加津子・鈴木正博・鈴木重信・田代 隆・田中英司・田中広明・坪田幹男・
照林敏郎・中島岐視生・中村倉司・並木 隆・根本 靖・野沢 均・野中 仁・早川 泉・
早坂廣人・藤波啓容・松本富雄・柳井章宏・和田晋治・渡辺邦仁

中野遺跡第31地点 (開発主体者 個人)

田子山遺跡第29地点 (開発主体者 個人)

城山遺跡第20地点 (開発主体者 個人)

9. 発掘調査及び整理事業参加者

中野遺跡第31地点

調査担当者 佐々木保俊

調査員 深井恵子

発掘調査員 石原和子・伊野部三千子・岩森 都・海野ひとみ・大野涼子・生沼和子・
木村知恵子・河本智恵子・佐々木志野・鈴木陽子・須藤京子・高倉光代・
東浦久美子・高田美智子・古田トシ子・油橋由美・吉田顕子・村井京子・
宮川幸佳

整理協力員 伊野部三千子・太田敦子・尾崎美智子・鈴木美佐江・竹内美代子・東浦久美子・
星野恵美子・成田しのぶ・宮川幸佳

田子山遺跡第29地点

調査担当者 佐々木保俊

発掘協力員 海野ひとみ・大野涼子・桑原美智子・鈴木百合香・高田美智子・鈴木陽子・
石原和子・中村マキ子

整理協力員 伊野部三千子・太田敦子・尾崎美智子・鈴木美佐江・竹内美代子・東浦久美子・
星野恵美子・成田しのぶ・宮川幸佳

城山遺跡第20地点

調査担当者 佐々木保俊

発掘協力員 太田敦子・竹内美代子・宮川幸佳・東浦久美子・成田しのぶ

目 次

はじめに

例 言

目 次

図版目次

挿図目次

| | |
|--------------------------|----|
| 第1章 平成4・5年度調査成果の概要 | 1 |
| 第1節 調査に至る経過 | 1 |
| 第2節 平成4年度の調査成果 | 2 |
| 第3節 平成5年度の調査成果 | 4 |
| 第2章 中野遺跡第31地点の調査 | 11 |
| 第1節 遺跡の概要 | 11 |
| 第2節 古墳時代の遺構と遺物 | 12 |
| 第3章 田子山遺跡第29地点の調査 | 15 |
| 第1節 遺跡の概要 | 15 |
| 第2節 検出された遺構と遺物 | 16 |
| 第4章 城山遺跡第20地点の調査 | 22 |
| 第1節 遺跡の概要 | 22 |
| 第2節 検出された遺構 | 23 |
| 第5章 まとめ | 24 |

図版目次

- 図版 1 中野遺跡第31地点 (上) 調査区近景
(下) 発掘調査風景
- 図版 2 " (上) 古墳時代38号住居跡
(下) 38号住居跡出土遺物
- 図版 3 田子山遺跡第29地点 (上) 確認調査風景
(下) 41・43号住居跡
- 図版 4 " (上) 古墳時代41号住居跡
(下) 41号住居跡遺物出土状態
- 図版 5 " (上) 古墳時代42号住居跡
(下) 42号住居跡遺物出土状態
- 図版 6 " 41・42・43号住居跡出土遺物
- 図版 7 城山遺跡第20地点 (上) 調査区近景
(下) 発掘調査風景
- 図版 8 " (上) 古墳時代76号住居跡
(下) 83・84号土坑

挿 図 目 次

| | | |
|------|-----------------------------|----|
| 第1図 | 市域の地形と調査地点—平成4年度— (1/20000) | 7 |
| 第2図 | 市域の地形と調査地点—平成5年度— (1/20000) | 9 |
| 第3図 | 周辺の地形と調査地点 (1/5000) | 11 |
| 第4図 | 遺構分布図 (1/300) | 12 |
| 第5図 | 38号住居跡 (1/60) | 13 |
| 第6図 | 38号住居跡出土遺物 (1/4) | 14 |
| 第7図 | 周辺の地形と調査地点 (1/5000) | 15 |
| 第8図 | 遺構分布図 (1/300) | 16 |
| 第9図 | 41・43号住居跡 (1/60) | 17 |
| 第10図 | 41号住居跡出土遺物 (1/4) | 18 |
| 第11図 | 42号住居跡 (1/60) | 19 |
| 第12図 | 42号住居跡出土遺物 (1/4) | 20 |
| 第13図 | 43号住居跡出土遺物 (1/4) | 21 |
| 第14図 | 周辺の地形と調査地点 (1/5000) | 22 |
| 第15図 | 遺構分布図 (1/300) | 23 |
| 第16図 | 83・84号土坑 (1/60) | 23 |

第1章 平成4・5年度調査成果の概要

第1節 調査に至る経過

志木市は、埼玉県の南部に位置し、市域はおおよそ南北 4.2km、東西 4.4kmの広がりを持ち、面積は9.06km²を測る。地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区には、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が大きく広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、河川は荒川が市域東部を南東流し、市域西部から北東流する柳瀬川が、市域北部から南東流する新河岸川と市域中央部の市役所付近で合流している。

こうした自然環境の下、西原大塚遺跡をはじめ市域の大部分の遺跡は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に存在している。

当市は、都心から25km圏内に位置し、東武東上線志木駅一池袋駅間を急行で20分ほどというように交通の便にも恵まれ、都心近郊のベッドタウンとして、昭和40年前後から急激に人口増加の経過をみせてきた。最近では営団有楽町線乗り入れが開始し、この傾向がますます顕著になってきている。これに伴い、各種の開発行為も増大してきたが、とりわけ住宅建設の占める割合が高く小規模開発による遺跡破壊が進行する状況にある。また、遺跡の集中する志木市本町・柏町・幸町地区は市街化の最も激しい地域になっている現状も遺跡破壊の事態を一層大きくしていると言える。

さて、当市における開発行為、特に住宅建設については小規模のものが多いが、その中で開発当事者が個人で、その個人が専用に使用する住宅の建設についての記録保存の実施については、費用の負担など困難な点が多かった。そのため、昭和62年度からは国・県よりの補助金の交付を受け、こうした深刻な事態に対応してきている。さらに、民間・公共事業を問わず確認調査については、すべて公費で対応し、開発事業者の負担軽減と埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布状況の把握を積極的に遂行している。また、最近、人口増加が始まった頃に建設された個人住宅の建て替えも多くなってきており、平成2年度以来、個人住宅建設に伴う調査件数は、共同住宅を2位におさえ、首位に浮上した。

平成4年度は、36地点の確認調査を実施した。そのうち、発掘調査を実施したのは9地点で、すべて志木市遺跡調査会が主体となって実施された（中野遺跡第25地点は平成3年度からの継続）。工事内容の内訳件数は、個人専用住宅15件、共同住宅14件、駐車場3件、店舗併用住宅1件、公園整備1件、区画整理事業1件である。

平成5年度は、41地点の調査（確認調査は39地点、立会い調査は1地点、現地踏査は1地点）を実施した。そのうち、教育委員会が実施した発掘調査は4地点、志木市遺跡調査会が実施したものは8地点である（中野遺跡第28地点は平成4年度からの継続、また、田子山遺跡第31地点は平成6年度に繰越しで実施）。工事内容の内訳件数は、個人専用住宅19件、共同住宅14件、区画整理事業2件、下水道布設工事1件、校庭整備（雨水流出抑制工事）1件、宅地造成1件、店舗併用住宅1件、事務所増築1件、土壌改良工事1件である。

第2節 平成4年度の調査成果

| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備 考 |
|----|-----------------|--------------------|-------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 1 | 中野遺跡 第25地点 | 柏町1丁目 1501 | 883.00 | 平成4年 2月12日～ 7月20日 | 確認調査は平成4年2月12日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 2 | 富士前遺跡 第7地点 | 本町3丁目 1880-1他 | 484.79 | 4月13日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 3 | 西原大塚遺跡 第25地点 | 幸町2丁目 3046-1の一部 | 266.86 | 4月13日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 4 | 城山遺跡 第14地点 | 柏町3丁目 2599-8 | 181.90 | 5月1日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 5 | 市場遺跡 第12地点 | 本町2丁目 1638-2 | 284.06 | 5月8日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 6 | 中野遺跡 第26地点 | 柏町1丁目 1516-1・7 | 196.50 | 5月15日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 7 | 田子山遺跡 第17地点 | 本町2丁目 1681-1 | 107.56 | 5月27日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 8 | 市場遺跡 第13地点 | 本町3丁目 1588-10 | 292.83 | 6月20日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 9 | 新邸遺跡 第5地点 | 柏町5丁目 2935-1 | 220.09 | 6月25日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 10 | 田子山遺跡 第18地点 | 本町3丁目 1819-3 | 168.04 | 6月29日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 11 | 田子山遺跡 第19地点 | 本町2丁目 1698-21 | 63.54 | 6月29日～ 7月16日 | 確認調査は6月29日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 12 | 中野遺跡 第27地点 | 柏町1丁目 1516-2 | 145.80 | 7月6日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 13 | 田子山遺跡 第20地点 | 本町3丁目 1845-13 | 69.56 | 7月23日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 14 | 城山遺跡 第15地点 | 柏町3丁目 2608 | 560.00 | 7月21日～ 8月21日 | 調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 15 | 西原大塚遺跡 第26地点 | 幸町3丁目 3133-22 | 59.62 | 8月24日 | 遺構・遺物は検出されなかった |

| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備考 |
|----|------------------|-----------------------|-------------------|------------------------|------------------------------------|
| 16 | 富士前遺跡 第 8 地点 | 本町 3 丁目 1853-26 | 59.50 | 8 月 31 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 17 | 田子山遺跡 第 21 地点 | 本町 2 丁目 1690-4 | 104.20 | 9 月 7 日～ 9 月 21 日 | 確認調査は 9 月 7 日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 18 | 中道遺跡 第 27 地点 | 柏町 5 丁目 2978-1 | 632.90 | 9 月 9 日～ 9 月 25 日 | 確認調査は 9 月 9 日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 19 | 中道遺跡 第 28 地点 | 柏町 5 丁目 2978-7 | 162.51 | 9 月 28 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 20 | 城山遺跡 第 16 地点 | 柏町 3 丁目 2599-7 | 1,556.00 | 10 月 2 日～ 12 月 11 日 | 調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 21 | 中道遺跡 第 29 地点 | 柏町 5 丁目 2945-2 | 287.74 | 10 月 5 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 22 | 本町 4 丁目 | 本町 4 丁目 1109-11 | 173.08 | 10 月 7 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 23 | 氷川前遺跡 第 4 地点 | 柏町 4 丁目 2686-4 | 162.45 | 10 月 16 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 24 | 田子山遺跡 第 22 地点 | 本町 3 丁目 1864-3 | 492.00 | 10 月 26 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 25 | 中道遺跡 第 30 地点 | 柏町 4 丁目 2673-2 | 236.76 | 10 月 30 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 26 | 富士前遺跡 第 9 地点 | 本町 3 丁目 1853-27 | 101.50 | 11 月 19 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 27 | 田子山遺跡 第 23 地点 | 本町 2 丁目 1692-1 | 118.95 | 11 月 27 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 28 | 田子山遺跡 第 24 地点 | 本町 2 丁目 1729-1・3他 | 2,720.61 | 12 月 4 日 | 発掘調査は平成 5 年度に志木市遺跡 調査会が実施 |
| 29 | 本町 4 丁目 | 本町 4 丁目 1949-16・17 | 88.64 | 12 月 24 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 30 | 本町 4 丁目 | 本町 4 丁目 1145-9 | 116.00 | 平成 5 年 1 月 12 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 31 | 中野遺跡 第 28 地点 | 柏町 1 丁目 1498-1他 | 2,579.21 | 1 月 13 日～ 6 月 16 日 | 確認調査は 1 月 13 日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 32 | 田子山遺跡 第 25 地点 | 本町 2 丁目 1690-1 | 856.50 | 1 月 22 日～ 3 月 19 日 | 確認調査は 1 月 22 日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |

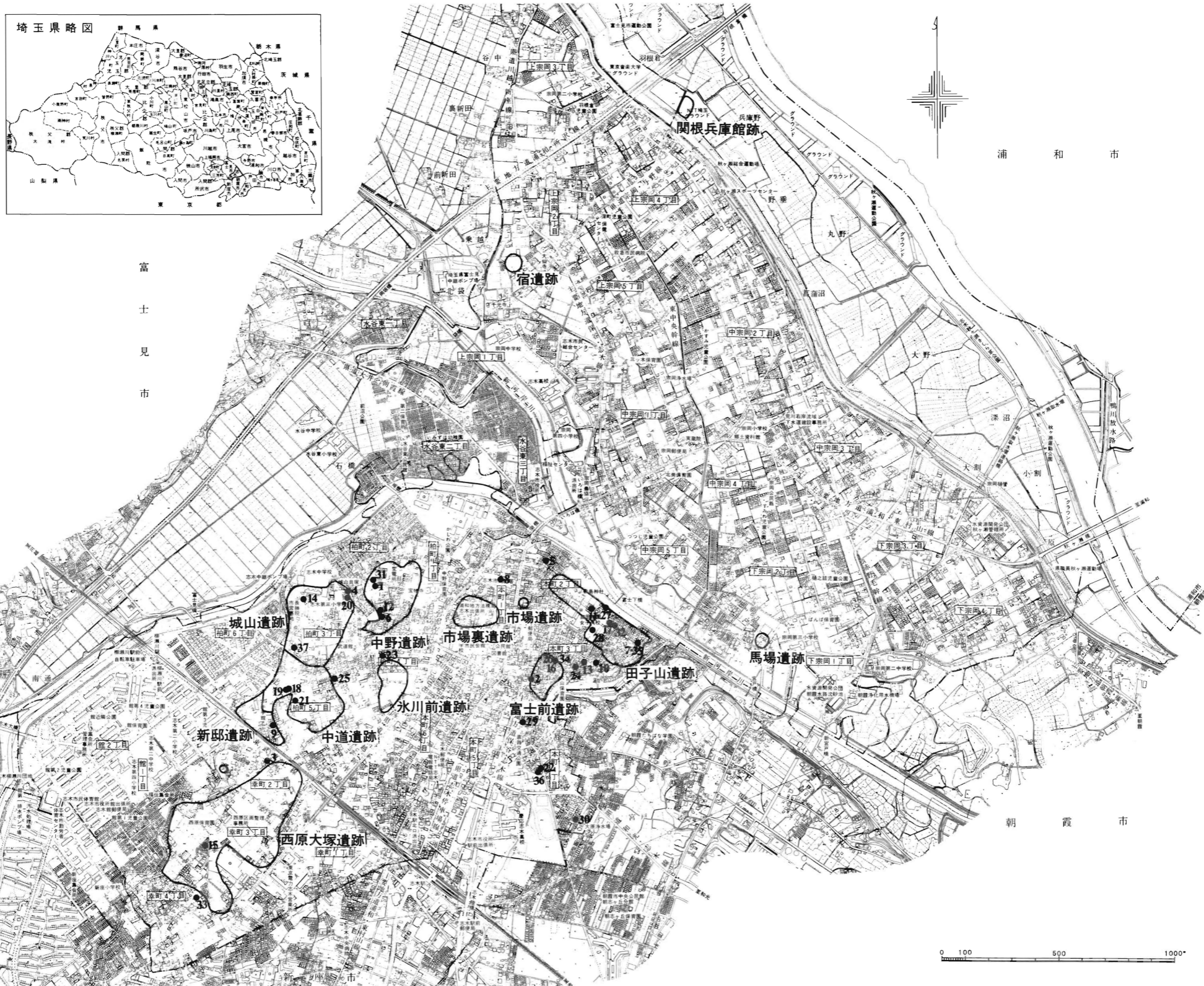
| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備 考 |
|-----|--------------------|------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| 33 | 西原大塚遺跡 (区画整理事業) | 幸町4丁目 3363-1他 | 3,529.00 | 1月27日～ 1月28日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 34 | 富士前遺跡 第10地点 | 本町3丁目 1853-29 | 59.90 | 2月8日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 35 | 田子山遺跡 第26地点 | 本町2丁目 1681-4 | 104.92 | 2月26日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 36 | 本町4丁目 | 本町4丁目 1109-8 | 177.33 | 3月19日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 37 | 城山遺跡 第17地点 | 柏町3丁目 2632-7 | 130.56 | 3月22日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 合 計 | | | 18,433.91 | | |

第3節 平成5年度の調査成果

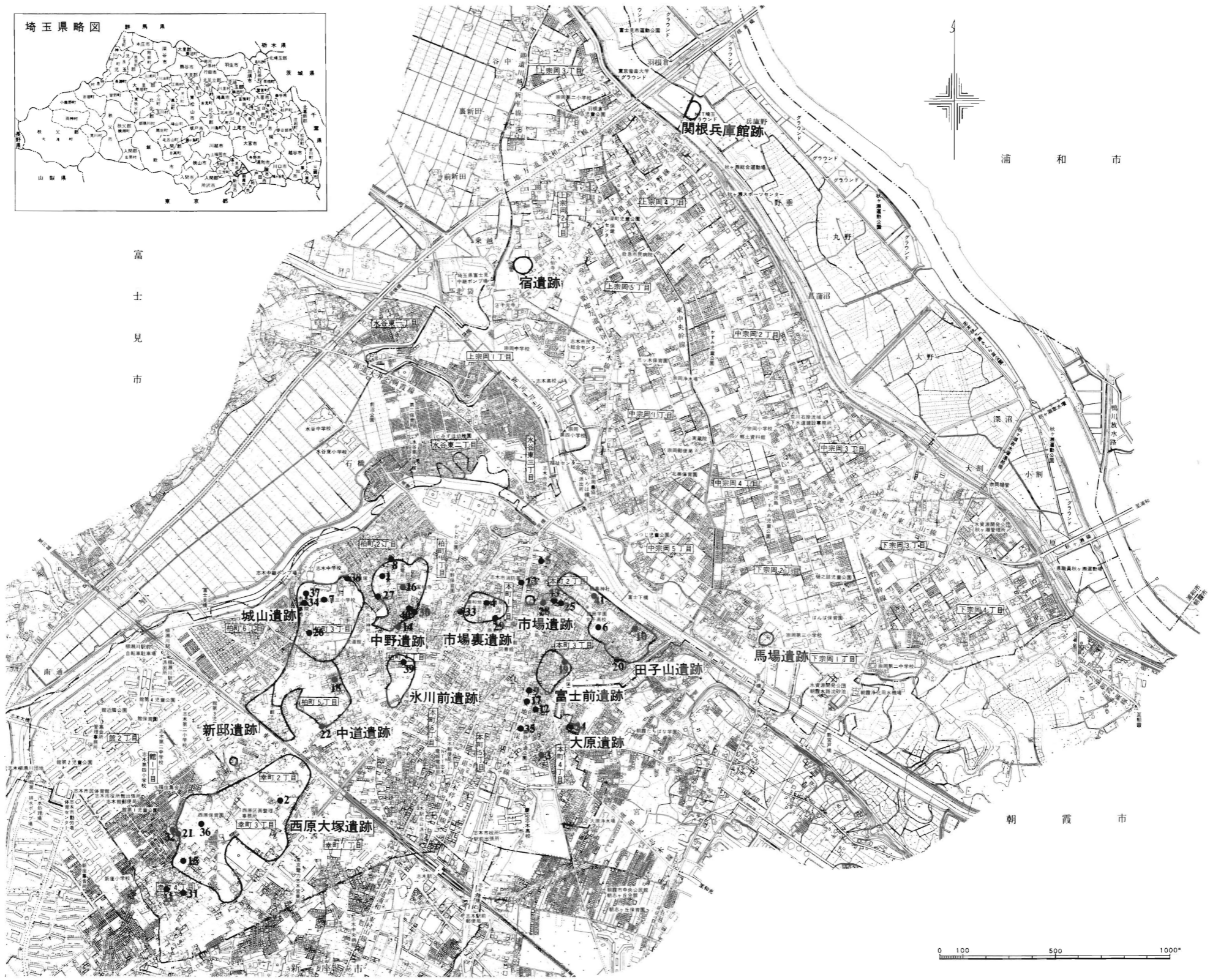
| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備 考 |
|----|-----------------|-----------------------|-------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 1 | 中野遺跡 第28地点 | 柏町1丁目 1498-1 | 2,579.21 | 平成5年 1月13日～ 6月16日 | 確認調査は平成5年1月13日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 2 | 西原大塚遺跡 第27地点 | 幸町3丁目 3060、3062 | 48.00 | 4月13日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 3 | 本町4丁目 | 本町4丁目 1109-14 | 166.73 | 4月14日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 4 | 市場裏遺跡 第5地点 | 本町1丁目 2513-2 | 205.08 | 4月23日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 5 | 市場遺跡 第14地点 | 本町2丁目 1613-7・14他 | 121.17 | 5月12日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 6 | 田子山遺跡 第24地点 | 本町2丁目 1729-1・3他 | 2,720.61 | 5月13日～ 9月21日 | 確認調査は平成4年12月4日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 7 | 城山遺跡 第18地点 | 柏町3丁目 2608-1、2609他 | 115.45 | 6月3日～ 8月28日 | 確認調査は6月3日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 8 | 中野遺跡 第29地点 | 柏町1丁目 1493-1の一部 | 115.71 | 6月11日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 9 | 本町4丁目 | 本町4丁目 1884-6 | 247.89 | 6月15日 | 遺構・遺物は検出されなかった |

| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備考 |
|----|--------------------|-------------------------|-------------------|---------------------|----------------------------------|
| 10 | 田子山遺跡 第 27 地点 | 本町 2 丁目 1683-6 | 79.33 | 6 月16日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 |
| 11 | 西原大塚遺跡 第 28 地点 | 幸町 4 丁目 3502-1 | 312.34 | 6 月17日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 12 | 本町 4 丁目 | 本町 4 丁目 1905-8 | 129.90 | 6 月18日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 13 | 田子山遺跡 第 28 地点 | 本町 2 丁目 1632-2 | 116.64 | 7 月13日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 14 | 中野遺跡 第 30 地点 | 柏町 1 丁目 2577-37 | 69.82 | 7 月21日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 15 | 西原大塚遺跡 (区画整理事業) | 幸町 4 丁目 3389-2 | 460.00 | 7 月30日～ 8 月13日 | 確認調査は 7 月30日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 16 | 中野遺跡 第 31 地点 | 柏町 1 丁目 1509-6 | 365.14 | 8 月 4 日～ 8 月19日 | 後述 第 2 章参照 |
| 17 | 本町 4 丁目 | 本町 4 丁目 1949-29・30 | 376.34 | 8 月 4 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 18 | 中道遺跡 第 31 地点 | 柏町 5 丁目 2950-38 | 116.00 | 8 月23日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 19 | 富士前遺跡 第 11 地点 | 本町 3 丁目 1860-4 | 194.92 | 8 月23日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 20 | 田子山遺跡 第 29 地点 | 本町 3 丁目 1815-2・3 | 238.05 | 8 月30日～ 9 月10日 | 後述 第 3 章参照 |
| 21 | 西原大塚遺跡 第 29 地点 | 幸町 3 丁目 3106-3 | 491.97 | 9 月21日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 22 | 中道遺跡 第 32 地点 | 柏町 5 丁目 2908-10 | 141.23 | 10 月 5 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 23 | 市場遺跡 第 15 地点 | 本町 1 丁目 1588-3の一部 | 195.73 | 10 月 7 日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 24 | 大原遺跡 第 1 地点 | 本町 4 丁目 1015-2・47・48 | 160.25 | 10 月13日～ 10 月18日 | 確認調査は10月13日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 25 | 田子山遺跡 第 30 地点 | 本町 2 丁目 1716-17 | 157.14 | 10 月20日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 26 | 城山遺跡 第 19 地点 | 柏町 3 丁目 2642,2630-4他 | 361.93 | 10 月28日～ 11 月15日 | 確認調査は10月28日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |

| 番号 | 調査地点 | 所在地 | 面積 m ² | 調査期間 | 備考 |
|-----|--------------------|----------------------|-------------------|--------------------------|---------------------------------|
| 27 | 中野遺跡 第32地点 | 柏町2丁目 1209-5の一部 | 235.67 | 11月8日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 28 | 市場遺跡 第16地点 | 本町2丁目 1632-16 | 109.21 | 11月11日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 29 | 市場裏遺跡 第6地点 | 本町1丁目 2506-3 | 169.60 | 11月17日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 30 | 中野遺跡 第33地点 | 柏町1丁目 1518-12-14 | 151.23 | 11月26日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 31 | 西原大塚遺跡 第30地点 | 幸町4丁目 3415-1 | 85.67 | 12月14日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 32 | 西原大塚遺跡 第31地点 | 幸町3丁目 3105-1・3 | 394.09 | 12月15日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 33 | 市場裏遺跡 第7地点 | 本町1丁目 2553、2561 | 459.06 | 12月21日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 34 | 城山遺跡 第20地点 | 柏町3丁目 1137-7・8・10 | 100.38 | 12月24日～ 平成6年 1月17日 | 後述 第4章参照 |
| 35 | 本町4丁目 | 本町4丁目 1950-2 | 37.80 | 1月17日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 36 | 西原大塚遺跡 (区画整理事業) | 幸町3丁目 3098他17筆 | 3,835.00 | 2月17日～ 現在調査 進行中 | 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 37 | 城山遺跡 第21地点 | 柏町3丁目 1138-1 | 48.00 | 2月18日～ 2月24日 | 立会い調査は2月17日 発掘調査は志木市教育委員会が実施 |
| 38 | 城山遺跡 第22地点 | 柏町3丁目 2602-1の一部 | 498.13 | 3月2日～ 3月30日 | 確認調査は3月2日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 39 | 氷川前遺跡 第5地点 | 柏町4丁目 2685-4 | 100.05 | 3月7日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 40 | 中野遺跡 第34地点 | 柏町1丁目 1518-30 | 114.51 | 3月24日 | 遺構・遺物は検出されなかった |
| 41 | 田子山遺跡 第31地点 | 本町2丁目 1697-1699 | 2,944.95 | 3月28日～ 10月21日 | 確認調査は3月28日 発掘調査は志木市遺跡調査会が実施 |
| 合 計 | | | 19,569.93 | | |



第1図 市域の地形と調査地点—平成4年度—(1/20000)



第2図 市域の地形と調査地点—平成5年度— (1/20000)

第2章 中野遺跡第31地点の調査

第1節 遺跡の概要

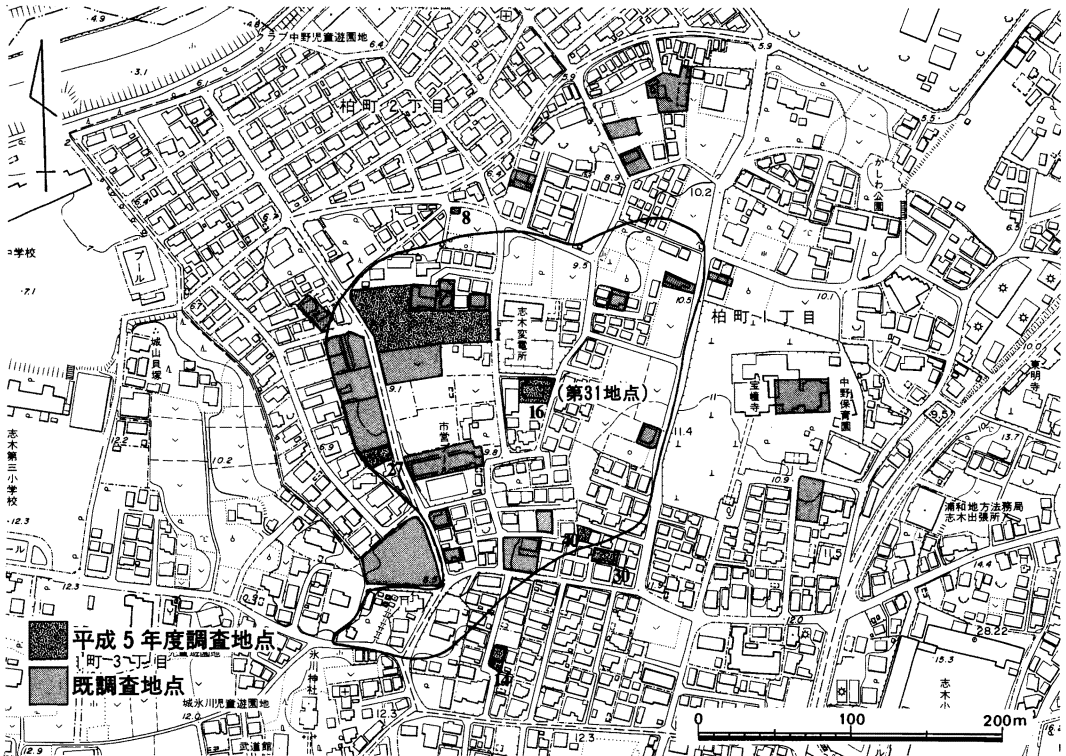
(1) 立地と環境

中野遺跡は、志木市柏町1丁目を中心とする遺跡である。遺跡は北方に柳瀬川を、西方に小支谷を臨むやや舌状に突出した台地上に立地する。遺跡は北端で約9m、南端で約11mを測り、北側に行くにつれてゆるやかに下がっており、そのまま沖積低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急激に進行している地域であり、以前ほどの閑静さは失われつつある。

本遺跡の第1回目の発掘調査は、昭和60年に実施され、以後の調査で弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代の集落跡であることが知られている。平成4年には、遺跡の核心部ともいべき箇所ので2地点（第25地点・第28地点）の比較的大きな規模の調査が実施され、古墳時代後期を中心とした複合遺跡であることが判明してきた。

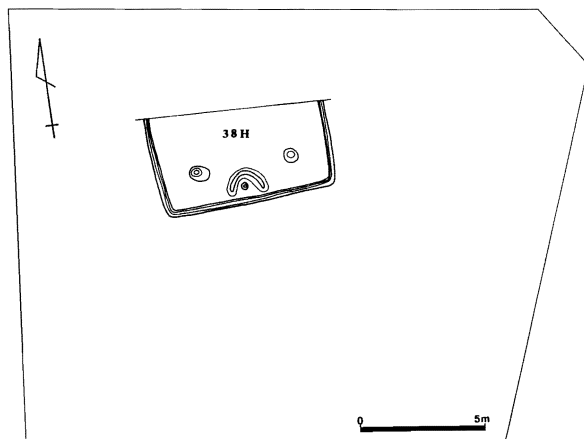
(2) 発掘調査の経過

発掘調査は、平成5年8月4日から開始した。調査区の長軸に合わせ、2本のトレンチを設定、バックホーを使用し、表土を剥ぐ。同時に遺構確認作業を行った結果、調査区北端より住居跡と思



第3図 周辺の地形と調査地点 (1/5000)

われる遺構1基を検出した。しかし、敷地内に残土置場を確保することが困難であるという判断から、表土剥ぎの段階から、その残土をダンプに積載し、調査区外に運搬する予定とした。残土運搬作業は6日から11日の4日を費やし、13日から人力による細部の表土剥ぎ、遺構確認作業を行った。16日には遺構の精査を開始、出土土器から古墳時代後期の住居跡(38H)であることが判明した。17日、住居跡の床面が確認され、南壁に付設する入口部分と思われる凸堤をもつピットと2本の柱穴が検出された。



第4図 遺構分布図(1/300)

18日には、写真撮影を終え、19日には実測も終了、埋め戻しは21日から開始し、運搬した残土を戻し、24日には終了した。これにより、すべての調査を完了した。

第2節 古墳時代の遺構と遺物

38号住居跡(第5図)

〔住居構造〕住居跡の南半分が確認された。(規模)不明×7.04m。(壁高)60cm前後を測り、ほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)確認できる範囲では全周する。上幅12cm・下幅8cm前後・深さ7~11cmを測る。(床面)全体に軟弱である。(柱穴)主柱穴は2本検出された。南西コーナーのものは、開口部が80×60cmの楕円形を呈し、深さ79cmを測る。南東コーナーのものは、直径50cmの円形を呈し、深さ38cmを測る。(凸堤)南壁に付設される馬蹄形状の隆起帯で、上幅15cm・下幅40cm・高さ4cm前後を測る。また、凸堤の内側には深さ18cmの小ピットをもつ。(覆土)1層は漸移層と思われる。基本的に2層からが本住居跡の覆土で、堆積状態はレンズ状の自然堆積状態を示す。

〔遺物〕覆土中から僅かに出土した。

〔時期〕古墳時代後期(鬼高式期)。

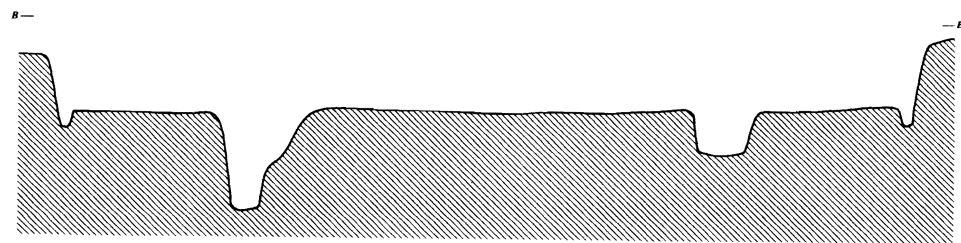
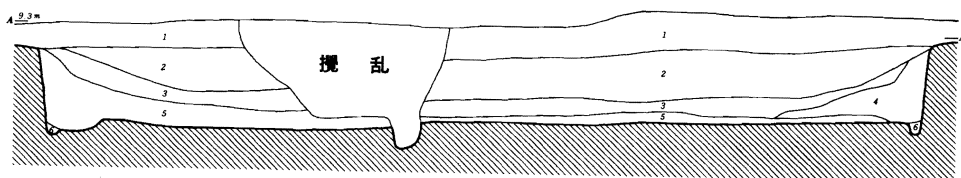
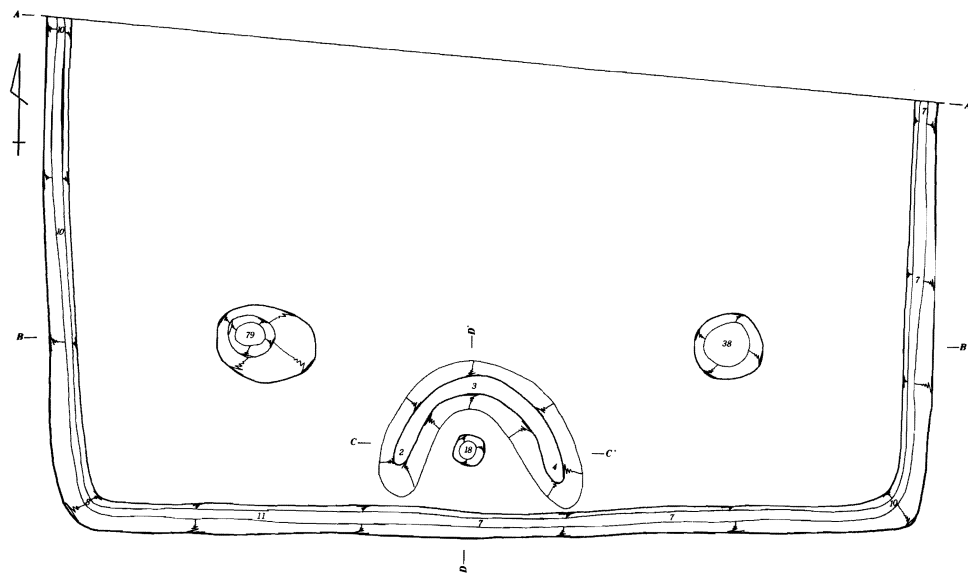
〔所見〕南壁に付設される小ピットをもつ凸堤は、入口部分に相当する施設である可能性がある。

38号住居跡出土遺物(第6図)

土師器坏形土器(1~3)

1は推定口径13cmを測る。底部と頸部の境に弱い稜線もち、口縁部は短く外反する。口唇部内面には沈線は無し。胎土中に砂粒を多く含み、中には5mm程の大きな小石を含む。口頸部内外面は横ナデ、以下ナデられるが、外面にはへら削り痕が残る。内面及び口頸部外面は赤彩が施される。覆土中の出土で、1/2程の遺存度である。

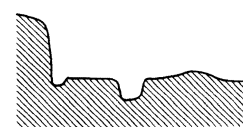
2は口径14.2cmの扁平な土器。底部と頸部の境に段もち、口縁部は外傾する。頸部の有段は、



C — — C'



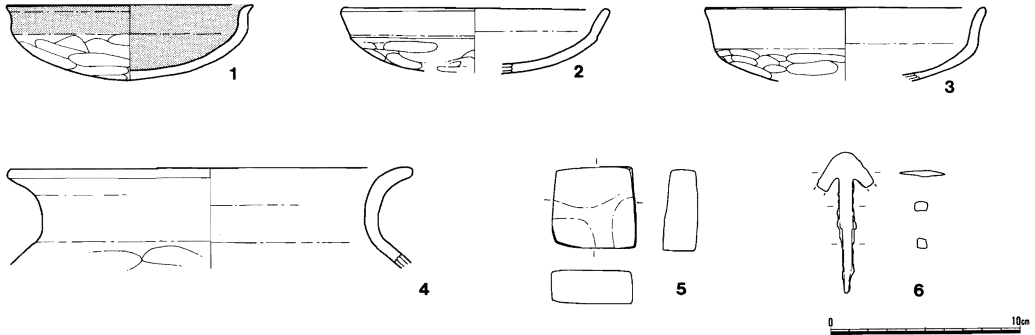
D — — D'



- 1層 暗褐色土
- 2層 ローム粒子を僅かに含む黒褐色土
- 3層 ローム粒子を多く含む暗茶褐色土
- 4層 ローム粒子を多く含む暗黄褐色土
- 5層 ローム粒子・ロームブロックを多く含む黄褐色土
- 6層 ロームブロックを多く含む明黄褐色土



第5図 38号住居跡 (1/60)



第6図 38号住居跡出土遺物(1/4)

すぐ上端にまわる1条の沈線により表出されている。口頸部内外面は横ナデ、以下内面はナデ、外面はへら削りされる。覆土中の出土で、 $\frac{4}{5}$ 程の遺存度である。

3は推定口径14.8cmを測る。2に比べ、底部と頸部との境には段がみられず、弱い稜となっている。口頸部外面及び内面は横ナデ、底部外面にはへら削り痕が顕著に残る。覆土中の出土で、 $\frac{1}{3}$ 程の遺存度である。

土師器甕形土器(4)

丸甕と思われる。胴部に丸みを有し、口頸部は大きく外反する。口頸部内外面は横ナデ、以下内面はナデ、外面は横方向のへら削りが施される。覆土中の出土で、胴部上半から口縁部を $\frac{1}{2}$ 程遺存する。

石製品(5)

砥石。4.1×4.3cm、厚さ1.5cmの正方形を呈する。表裏両面及び四側面には使用痕がみられる。

鉄製品(6)

鉄銚と思われる。長さ7.5cm、逆棘幅3.0cm、筥被部長2.7cm、筥被幅0.7cm、茎部3.4cm、重さ7.9gを測る。短頸のタイプで、銚身部は両刃であろう。逆棘は途中で破損しているが、さらに大きく開くものか。

〔引用・参考文献〕

- 佐々木保俊・尾形則敏 1985『西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点』志木市遺跡調査会報告第1集
- 佐々木保俊 1989「中野遺跡第6a・6b地点の調査」『志木市遺跡群I』志木市の文化財第13集
- 1990「中野遺跡第9地点の調査」『志木市遺跡群II』志木市の文化財第14集
- 1991『西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点』志木市の文化財第15集
- 尾形則敏 1992「中野遺跡第12地点の調査」『志木市遺跡群IV』志木市の文化財第17集
- 1993「中野遺跡第18地点の調査」『志木市遺跡群V』志木市の文化財第20集

第3章 田子山遺跡第29地点の調査

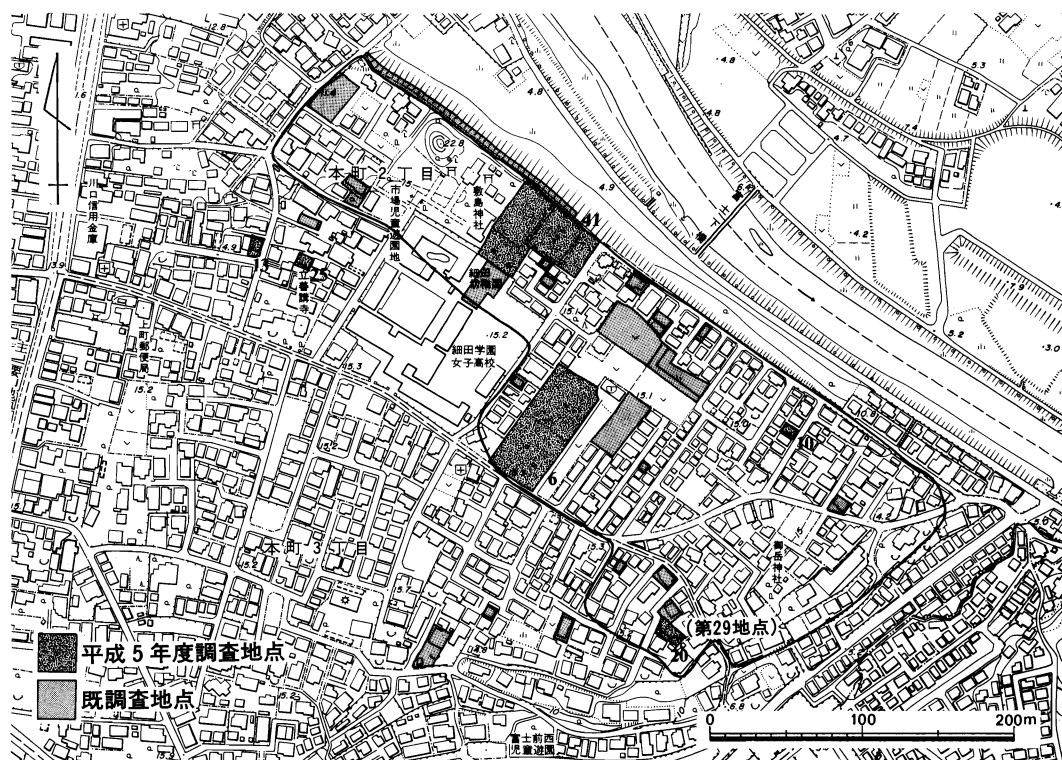
第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

田子山遺跡は、志木市本町2丁目を中心とする遺跡である。遺跡のすぐ崖下には、舟運があったことで有名な新河岸川が南東流し、かつては眼下にその風光明媚な景色が一望できたことをうかがわせる。田子山遺跡の「田子山」とは、敷島神社境内の擬岳富士である「田子山富士」を指し、この付近の字名に由来する。この擬岳富士は、現在でも「お富士さん」という通称で、広く親しまれているが、もとは古墳の墳丘上に土盛りを施し築いたものと言われている。今後は、学術的な調査を機に解明していく問題であろう。

本遺跡の第1回目の発掘調査は、昭和63年に実施され、以後の調査により、縄文時代早期・中期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代の集落跡であることが判明している。さらに、平成5年の第24地点の調査では、古墳時代後期の住居跡6軒、平安時代の住居跡9軒、平安時代のものと思われる土坑群が検出されている。

また、平成6年の第31地点の調査では、縄文時代中期の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡17軒、奈良時代の住居跡1軒、平安時代の住居跡5軒、ローム採掘遺構（富士塚関連遺構）2ヶ所などが

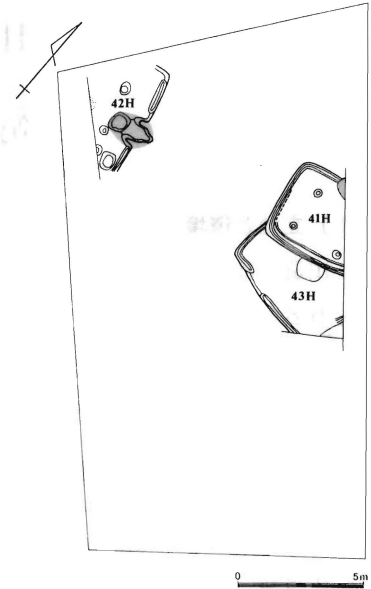


第7図 周辺の地形と調査地点 (1/5000)

検出された。中でも弥生時代後期の住居跡(第21号住居跡)から、大量の炭化米・炭化種子・豆類が出土したことで、敷島神社境内にある田子山富士の築造に使用された大量の土壌を採掘したと思われる遺構が確認されたことは特筆すべきである。

(2) 発掘調査の経過

発掘調査は、平成5年8月30日から開始した。調査区の長軸に合わせ、2本のトレンチを設定、バックホーを使用し、表土を剥ぐ。同時に遺構確認作業を行った結果、調査区北半より住居跡と思われる黒い掘り込みを2ヶ所で確認した。そのため、31日からは人員を導入し、細部の表土剥ぎ及び遺構確認を行った。遺構は住居跡が3軒確認され、それらは古墳時代後期のもの2軒(41・42H)と平安時代のもの1軒(43H)であることが判明した。そのうち、43Hに切られる41Hについては、床面下からもう1枚の床面が検出されたことより、拡張住居と考えられる。



第8図 遺構分布図 (1/300)

9月2日には、すべての遺構の写真撮影を終了し、6日には実測も完了する。埋め戻しは9・13日に行った。

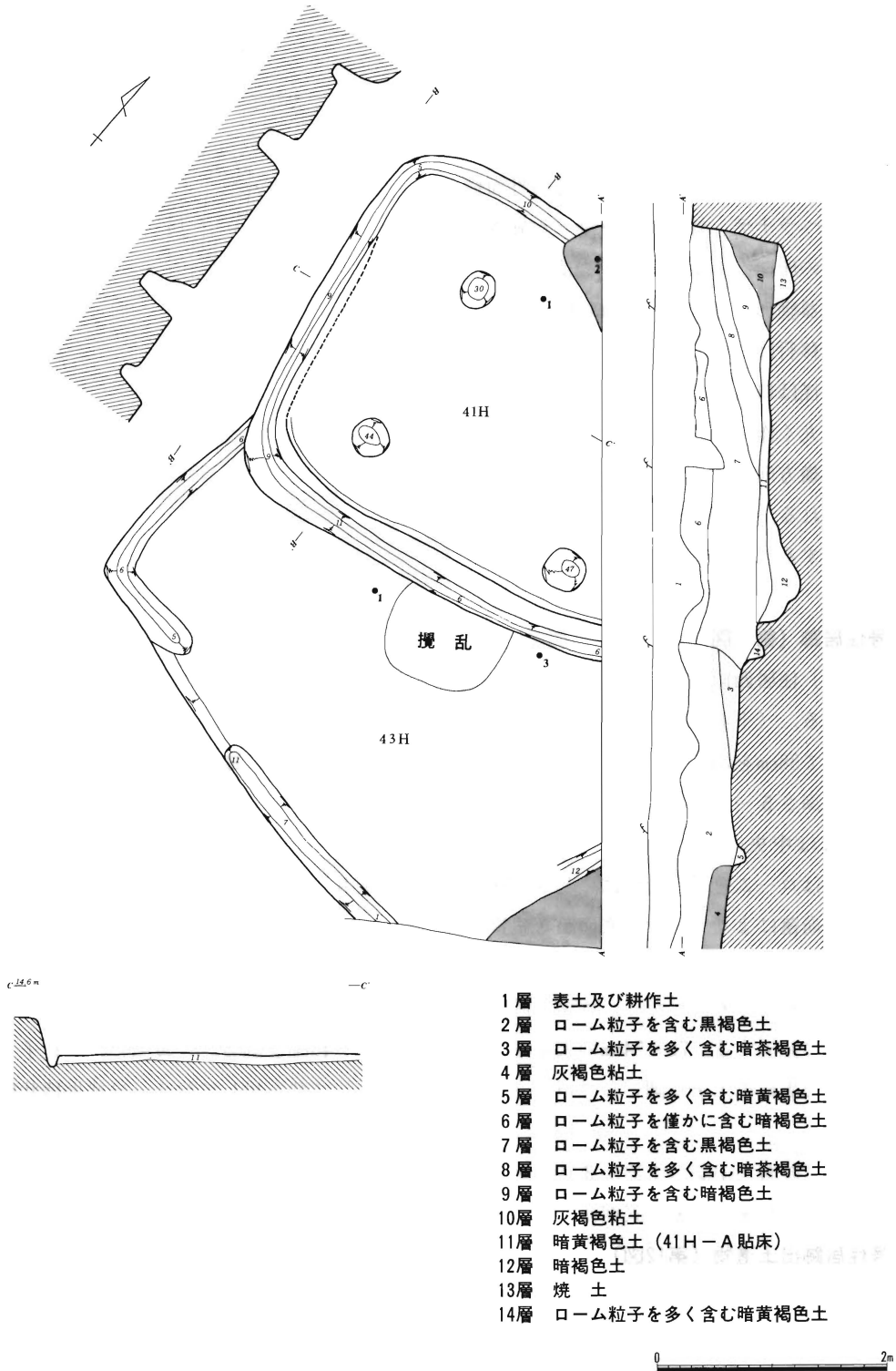
第2節 検出された遺構と遺物

41号住居跡 (第9図)

〔住居構造〕北半部分は43号住居跡に切られ、東半部分は調査区外にあるものと思われる。本住居跡は、床硬化面が2枚確認されたことから拡張住居と考えられる。拡張後の住居跡をAとし、拡張前のものをBとする。

〈41H-A〉(平面形)長方形。(規模)不明×3.48m。(壁高)65cm前後である。(壁溝)カマド部分を除いて全周する。上幅15cm・下幅8cm前後、深さ5~11cmを測る。(床面)壁際を除いてほぼ全面に硬化面を残す。(カマド)右側の大部分が調査区外にあるため、詳細は不明である。北壁ほぼ中央に位置し、袖部と天井部は灰褐色粘土が被覆して構築されている。また、袖部左側から長甕が倒置した状態で出土した。(柱穴)各コーナーに3本が確認された。南側の2本は深さ44cm、47cm、北西コーナーのものは30cmを測る。(覆土)7層のローム粒子を含む黒褐色土が厚く安定しており、堆積状態はレンズ状の自然堆積状態を示す。なお、11層はBの床面上に施された貼床部分である。

〈41H-B〉Aの床面の下から床硬化面が確認された。平面形はAの南壁内側で掘り込みが確認できるが、その他では明確に把握することができなかった。



第9図 41・43号住居跡 (1/60)

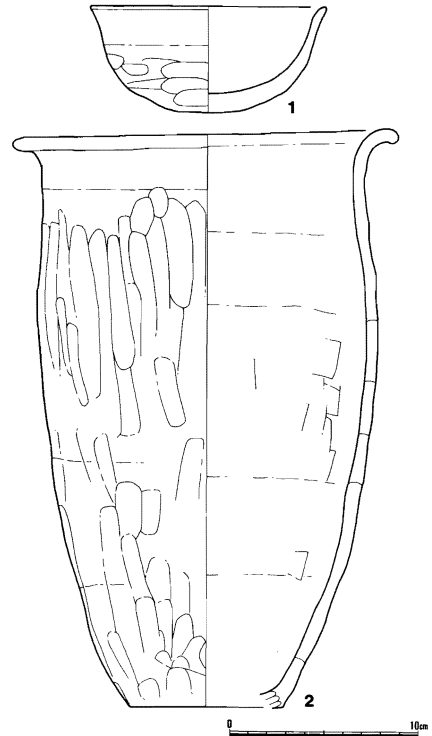
〔遺物〕カマド左袖部とカマド前面から土器が出土した。すべてAの住居からの出土である。

〔時期〕古墳時代後期（鬼高式期）。

41号住居跡出土遺物（第10図）

1は土師器坏形土器である。丸底の深みのあるもので、口縁部はやや外反する。口縁部内外面横ナデ、以下内面はへラナデ、外面はへラ削りが施される。カマド前面の床面上の出土で、 $\frac{1}{4}$ 程遺存する。

2は土師器甕形土器である。直線的な長い胴部から頸部への移行はスムーズで、口縁部は大きく外反する。最大径は口縁部に測り、口唇部は外側にめくられるように丸く作られている。口頸部内外面横ナデ、以下内面は横方向のへラナデ、外面は縦方向にへラ削りが施される。カマド左側の袖部からの出土で、底部を欠損する以外はほぼ完形である。



第10図 41号住居跡出土遺物（1/4）

42号住居跡（第11図）

〔住居構造〕住居西側の大部分が調査区外にあるものと思われる。（平面形）正方形か。（壁高）残りの良い箇所では38cmを測る。（壁溝）カマドの付設される東壁のみに確認された。上幅15cm・下幅8cm前後、深さ5～8cmを測る。（床面）壁際を除いてほぼ全面よく踏み固められている。（カマド）東壁ほぼ中央に位置するものと思われる。長さ186cm・幅134cm・壁への掘り込み50cmを測り、両袖部はロームを馬蹄形状に隆起させ残している。天井部・袖部を被覆していたと思われる灰褐色粘土は崩落により、カマド底面から観察できる。また、カマド前面から炉跡とは確認できないが、焼土検出部分が1ヶ所確認できた。（柱穴）3本確認されたが、北東コーナーの1本と貯蔵穴前の1本が支柱穴と考えられる。カマド近くの深さ26cmのピットは後世のものであろう。（貯蔵穴）カマド右横に位置する。72×54cmの大略長方形を呈し、深さ15cmを測る。（覆土）焼土粒子・ローム粒子を含む黒褐色土を基調としている。堆積状態は、レンズ状を呈しており、自然堆積状態を示す。

〔遺物〕特に貯蔵穴中から土器が3点出土した。

〔時期〕古墳時代後期（鬼高式期）。

42号住居跡出土遺物（第12図）

土師器坏形土器（1～3）

1は口径10.4cmを測る。丸底の底部と頸部の境には弱い稜を有し、口縁部は僅かに外反する。口唇部内面には1条の弱い沈線がまわる。口縁部内外面横ナデ、以下内外面ナデられるが、外面にはへラ削り痕が残る。貯蔵穴内からの出土で、 $\frac{1}{4}$ 程遺存する。

2は口径11cmを測る。1に比べ、底部と頸部の境には明瞭な段がみられ、口縁部は直線的に外傾する。口縁部内外面横ナデ、以下内外面はナデられる。覆土中からの出土で、 $\frac{1}{2}$ 程遺存する。

3は口径10cmを測る。底部から口縁部にかけて半球状を呈する。口縁部内外面横ナデ、以下内面はへらナデ、外面はへら削りが施される。貯蔵穴内の出土で、 $\frac{1}{2}$ 以上の遺存度である。

須恵器蓋形土器 (4)

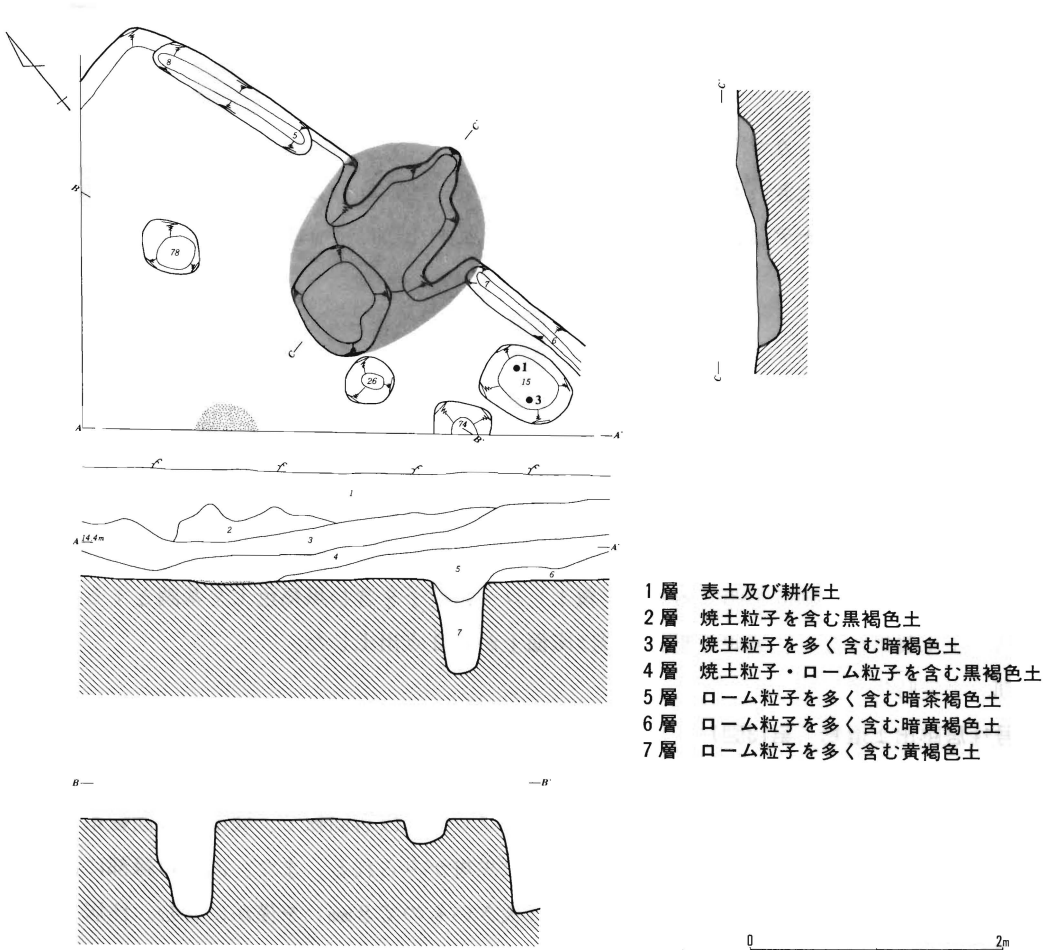
推定口径10.5cmを測る。天井部から口縁部にかけて半球状を呈する。天井部にはへら削り痕がみられる。覆土中の出土で、 $\frac{1}{2}$ 程遺存する。

土師器甕形土器 (5~7)

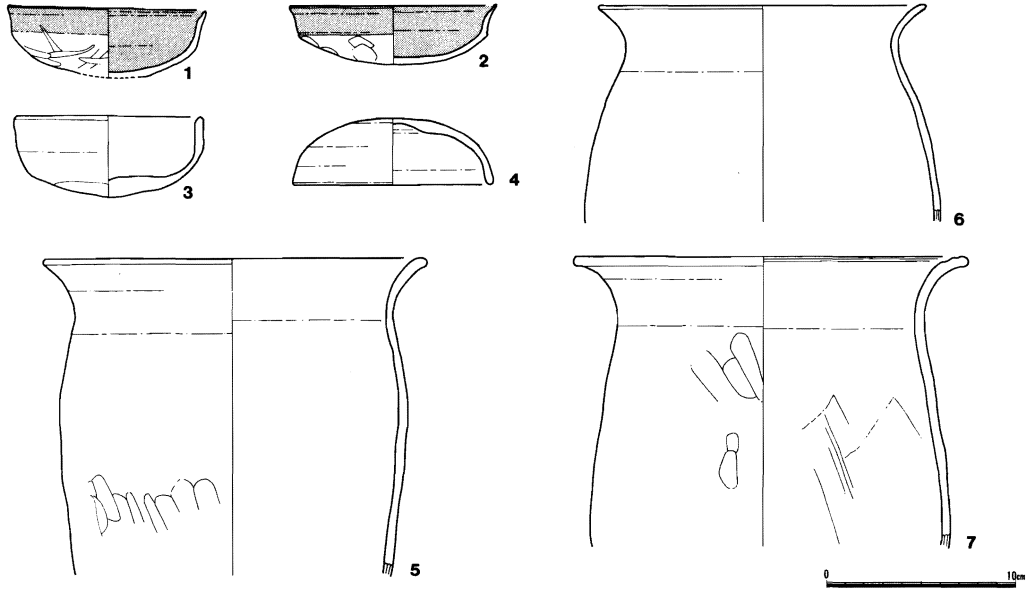
すべて口縁部から胴部中位の $\frac{1}{3}$ 程の長甕の破片である。

5はやや膨らみをもつ胴部上半から頸部への移行は、スムーズで口縁部は外反する。口頸部内外面横ナデ、以下内面は横方向のへらナデ、外面はていねいにナデ(スリップか)られるが、胴部中位には僅かにへら削り痕が残る。覆土中の出土である。

6は胴部中位に最大径をもつ。口頸部内外面横ナデ、以下内面へらナデ、外面はていねいにナデ



第11図 42号住居跡 (1/60)



第12図 42号住居跡出土遺物 (1/4)

(スリップか)られる。カマド内からの出土である。

7は口縁部の外反が大きいもので、口縁部内面には弱い段がまわる。口頸部内外面横ナデ、以下内外面ともに縦方向のナデ(スリップか)が施される。胎土中には金雲母を多く含む。覆土中の出土である。

43号住居跡 (第9図)

〔住居構造〕41号住居跡を切り、西側は調査区外にあるものと思われる。(平面形)長方形か。(壁高)50cm前後を測る。(壁溝)南・西壁で一部途切れている。上幅20cm・下幅10cm前後、深さ1～12cmを測る。(床面)壁際を除いてほぼ全面に硬化面を残す。(カマド)西壁から灰褐色粘土が検出されたため、この部分にカマドが付設されているものと考えられる。大部分が調査区外にあるものと思われるため、詳細は不明である。(覆土)ローム粒子を含む黒褐色土を基調とする。

〔遺物〕出土量は少なく、実測可能な土器は床面上から2点出土した。

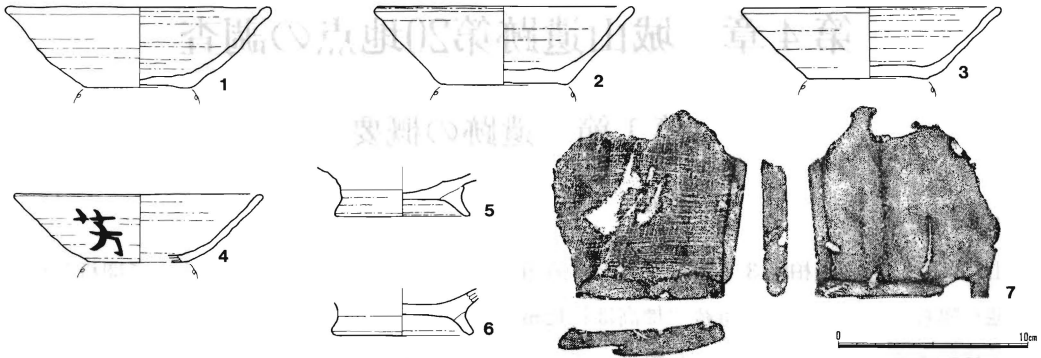
〔時期〕平安時代。

43号住居跡出土遺物 (第13図)

須恵器環形土器 (1～4)

1は口径14cm、底径5.7cm、高さ4.3cmを測る。ロクロ回転は右回転で、底部には回転糸切り痕が残る。色調は全体に淡黄褐色を呈するが、部分的に黒斑がみられる。また、内面口縁部には煤状のものが付着しているようである。胎土には小石(大きいもので8mm)を僅かに含む。住居中央の床面上の出土で、口縁部を僅かに欠損する。

2は口径13.8cm、底径6.7cm、高さ4.2cmを測る。ロクロ回転は右回転で、底部には回転糸切り痕



第13図 43号住居跡出土遺物(1/4)

が残る。色調は、摩耗が激しいため、全体に淡灰褐色を呈しているが、内面底部は暗褐色を呈する。覆土中の出土で、 $\frac{1}{4}$ 程の遺存度である。

3は口径13.7cm、底径6.3cm、高さ3.8cmを測る。ロクロ回転は右回転で、底部には回転糸切り痕が残る。色調は青灰褐色を呈し、胎土には小石(大きいもので7mm)を僅かに含む。住居中央の床面上の出土で、口縁部を僅かに欠損する。

4は口径13.2cm、底径5.2cm、高さ3.6cmを測る。ロクロ回転は右回転で、底部には回転糸切り痕が残る。色調は暗灰褐色を呈し、体部外面に墨書が施される。「芳」か。覆土中の出土で、 $\frac{1}{2}$ 程の遺存度である。

須恵器埴形土器(5・6)

5・6は高台付埴の底部破片である。色調は5が淡橙色、6が暗赤褐色を呈し、いずれも覆土中からの出土である。

布目瓦(7)

女瓦の破片である。凸面はナデ調整、凹面は布目の圧痕が残る。端部はへら削りされる。色調は淡橙色を呈し、胎土には砂粒を含む。

〔引用・参考文献〕

- 佐々木保俊 1990「田子山遺跡第1地点の調査」『志木市遺跡群II』志木市の文化財第14集
 1992「田子山遺跡第6・7地点の調査」『志木市遺跡群IV』志木市の文化財第17集
 1992「田子山遺跡第4・5地点の調査」『中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点発掘調査報告書』志木市の文化財第18集

第4章 城山遺跡第20地点の調査

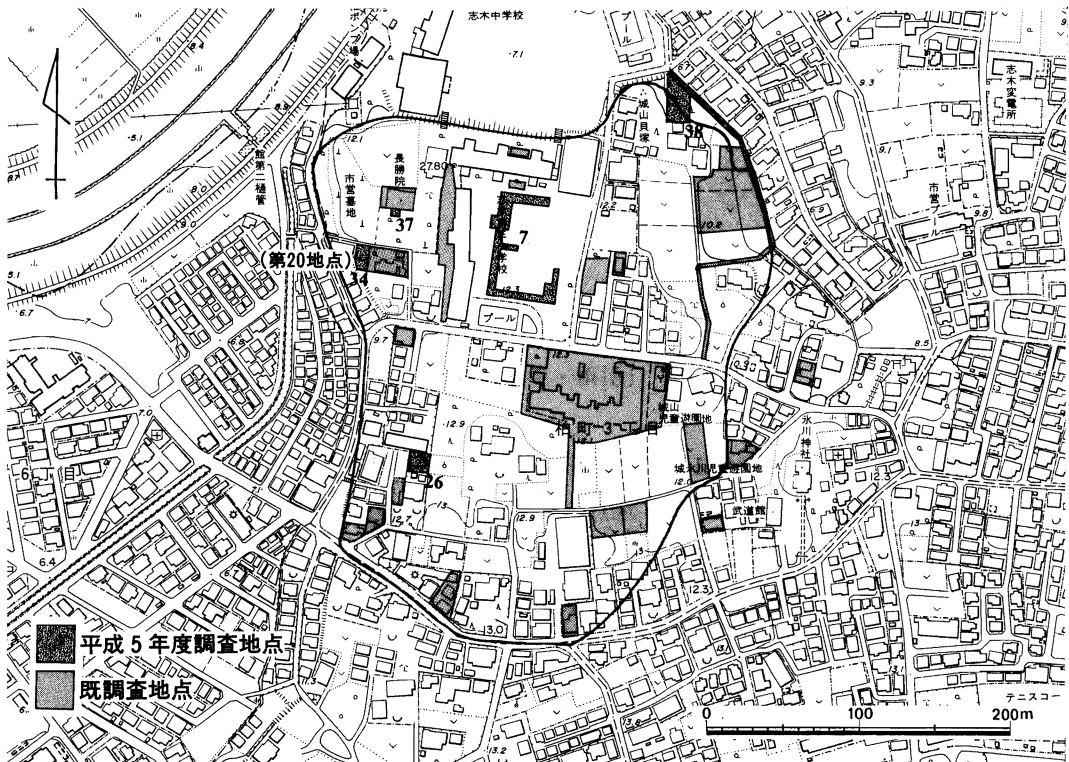
第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

城山遺跡は、志木市柏町3丁目を中心とする遺跡で、北西方向には柳瀬川によって開析された沖積低地を臨むことができる。遺跡の標高は約12m、低地との比高差約5mを測る。また、台地から低地へ移行する地形は、現在かなり際立っているが、これは宅地や道路などの造成によって削られたためであろう。原状は、もう少しゆるやかな斜面を有し低地に移行したものと推測される。

本遺跡の第1回目の発掘調査は、昭和49年に実施され、その調査により、縄文時代前期（諸磯a式）の住居跡1軒、古墳時代前期の住居跡1軒、溝状遺構1条が検出されている。昭和60年には本格的調査が実施され、その後の調査により、縄文時代前期・中期、弥生時代後期、古墳時代前期・中期・後期、平安時代の集落跡、中世の城館跡であることが判明している。

なお、中世の城館跡「柏の城」に関連するものと思われる遺構は、平成4年の志木市立志木第3小学校内の道路工事に伴う発掘調査により、本丸の大堀に相当するものと思われる2条の堀跡、同年の共同住宅建設に伴う発掘調査により、2条の堀跡、そして、平成5年の同小学校の雨水流出抑制工事に伴う発掘調査により、6条の堀跡と数基の土坑などが検出され、予想を上回る規模と細部



第14図 周辺の地点と調査地点 (1/5000)

構造の様子が明らかにされつつある。

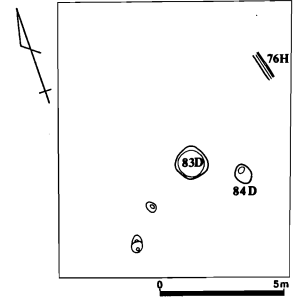
(2) 発掘調査の経過

確認調査は、平成5年12月24日に実施した。調査区の長軸中央に1本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剥ぐ。同時に遺構確認作業を行った結果、土坑状の遺構が検出された。

発掘調査は、平成11年1月13日から開始した。今回の調査では、残土置場の確保が困難であるため、表土をあらかじめ調査区外に運搬する予定とし、その作業を14日に終了した。

17日には人員導入により、細部の表土剥ぎ、遺構確認を行った結果、2基の土坑(83・84D)と数基のピット、古墳時代後期の住居跡(第11地点の第76号住居跡の西壁のみ)1軒(76H)が検出された。

同日、すべての遺構についての調査を終了し、埋め戻しは25日に完了、調査を終了した。



第15図 遺構分布図 (1/300)

第2節 検出された遺構

76号住居跡

〔住居構造〕 調査区内で確認されたのは、住居跡の壁及び壁溝の一部のみであるため、詳細は不明である。壁高は20cm前後を測り、壁溝は上幅15cm・下幅8cm・深さ15cm前後を測る。覆土はローム粒子を含む黒褐色土を基調とする。本住居跡は、第11地点の調査で検出された住居跡の西壁の一部に相当するものと考えられる。

〔遺物〕 実測できるものはなかった。

〔時期〕 古墳時代後期(鬼高式期)。

83号土坑 (第16図)

〔構造〕 (平面形) 円形。(規模) 124×120cm。(深さ) 30cm。(覆土) ローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。

〔遺物〕 なし。

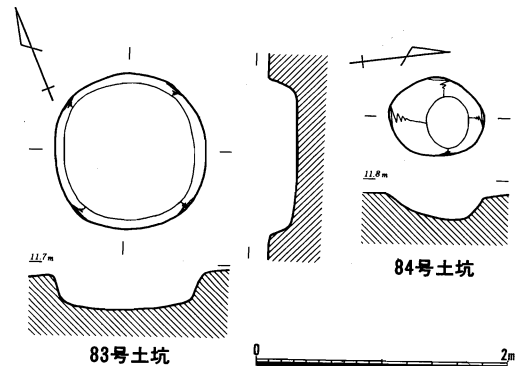
〔時期〕 不明。

84号土坑 (第16図)

〔構造〕 (平面形) 楕円形。(規模) 76×64cm。(深さ) 20cm。(覆土) ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。

〔遺物〕 なし。

〔時期〕 不明。



第16図 83・84号土坑 (1/60)

第5章 ま と め

今回は、平成5年度の個人住宅建設に伴う発掘調査である3地点についてのみ章を設けて報告を行った。なお、平成4年度については、補助事業で実施した発掘調査がなかったため、確認調査のみを一覧表に掲載するに留まった。

以下、平成5年度の3地点の調査について、若干のまとめを行うものとする。

まず、**中野遺跡第31地点**の調査では、古墳時代後期の住居跡が1軒検出された。本遺跡は、昭和60年の第1回目の発掘調査を契機に、以後調査が進められており、これらの調査から縄文時代早期末から近世にかけての複合遺跡であることが判明してきている。中でも、すべての報告はまだ行われていないが、検出住居の総数46軒中34軒の7割以上が古墳時代後期の住居跡であることは、本遺跡を特色付けるものであろう。

今回検出された38号住居跡は、北半部分の検出で南半部分は調査区外に延びるものと考えられる。住居構造として、カマドは確認されていないが、おそらく北壁に付設されているものと思われる。南壁に付設する馬蹄形状の凸堤は、本遺跡ではよく見られるもので、入口部分に相当する付属施設と捉えている。また、遺物としては、土師器坏形土器・土師器甕形土器・砥石・鉄鏃が出土した。

特に、出土土器より本住居跡の時期を考えると、1の口径13cmの比企型環、頸部に弱い段、不明瞭な稜線がみられる2・3の無彩土器から、7世紀前半から中葉に位置付けられる。

田子山遺跡第29地点の調査では、古墳時代後期の住居跡2軒と平安時代の住居跡1軒の総数3軒が検出された。今までに本遺跡で検出された古墳時代後期の住居跡は8軒、奈良・平安時代の住居跡は41軒をかぞえる。それらの時代様相については、まず、古墳時代後期は、本遺跡からはまだ6世紀にまで遡る住居跡は検出されていないことから、現段階では7世紀中葉から後半にかけての集落跡と考えてよいであろう。今回検出された42号住居跡からは、須恵器蓋形土器が出土しており、その特徴から7世紀中頃の時代観が与えられる。

奈良・平安時代については、17号住居跡が8世紀前半に位置付けられるものが古く、次に6・7・16・44号住居跡の8世紀後半がそれに続く。集落が拡大される時期は、平安時代の9世紀後半になってからのことで、5号住居跡の10世紀末まで集落が継続するものと考えられる。今回検出された43号住居跡出土の坏形土器は、底部に回転糸切り痕が残ること、底径が口径の $\frac{1}{2}$ を下回ることから、9世紀後半に位置付けられよう。

城山遺跡第20地点の調査では、古墳時代後期の住居跡1軒、時期不明の土坑2基が検出された。古墳時代後期の住居跡は、第11地点の調査で検出された76号住居跡の西壁の一部に相当するものと考えられる。その時の調査では、土師器甕形土器・土師器坏形土器が1点ずつ出土しており、およそ、7世紀前半の時代観が与えられる。

圖 版



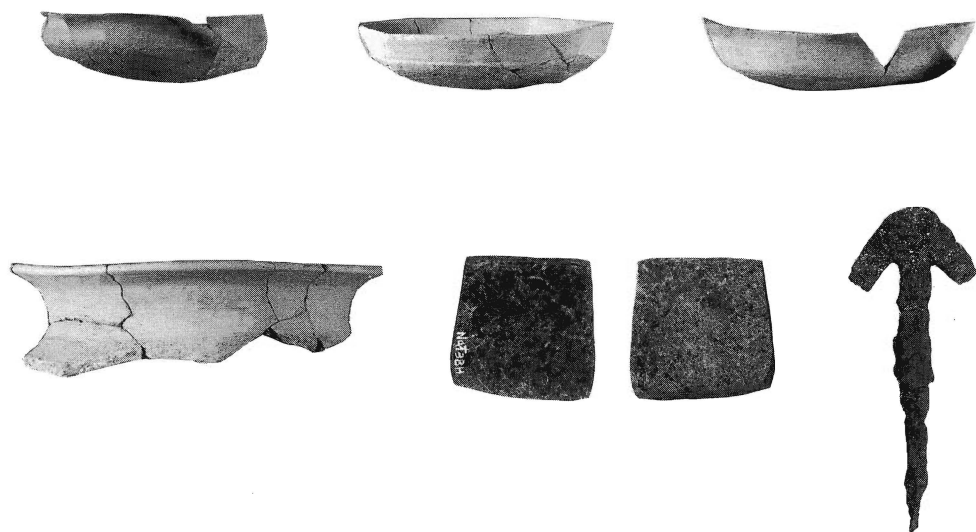
調査区近景



発掘調査風景



古墳時代38号住居跡



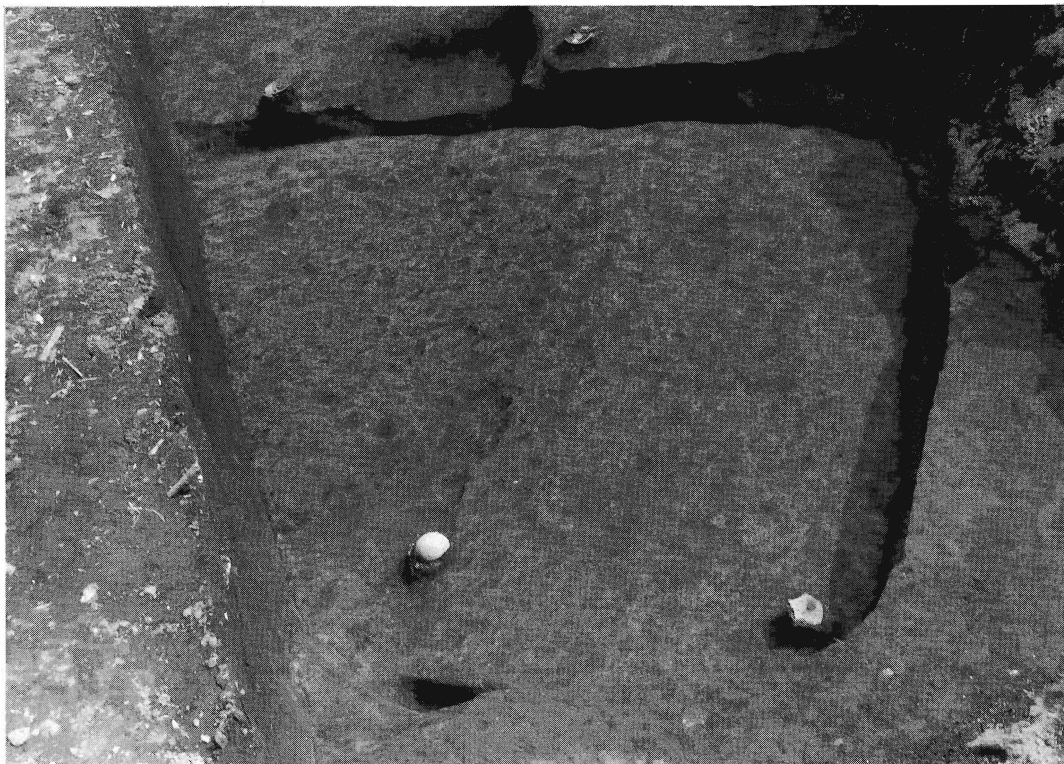
38号住居跡出土遺物



確認調査風景



41・43号住居跡



古墳時代41号住居跡



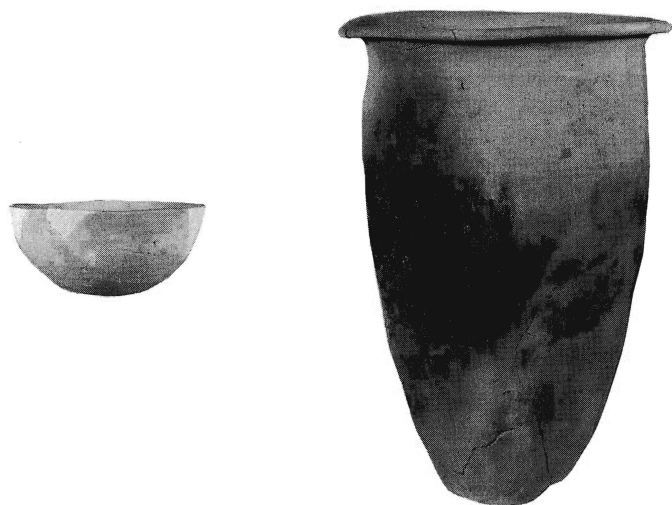
41号住居跡遺物出土状態



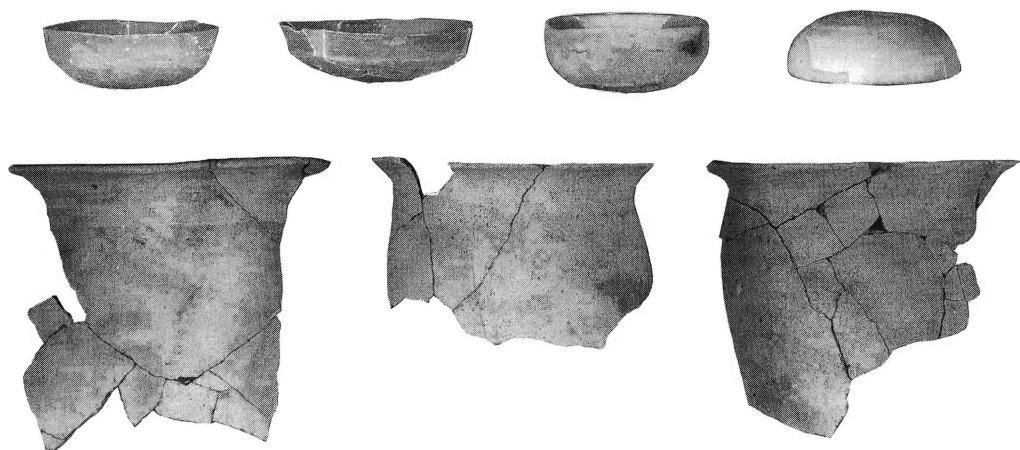
古墳時代42号住居跡



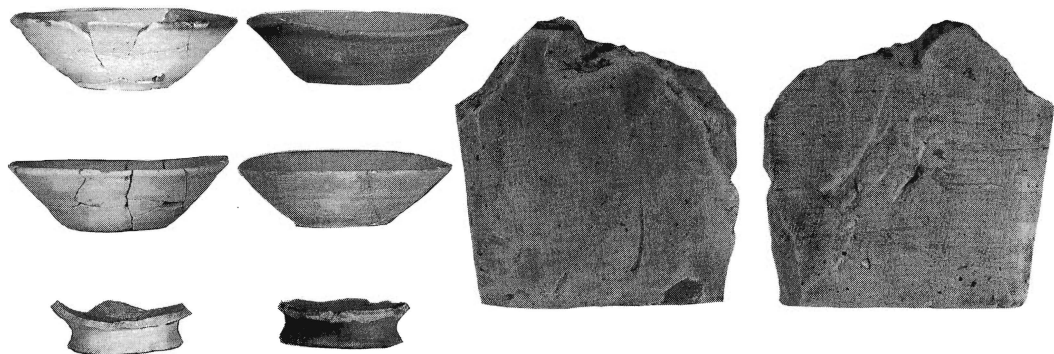
42号住居跡遺物出土状態



41号住居跡出土遺物



42号住居跡出土遺物



43号住居跡出土遺物



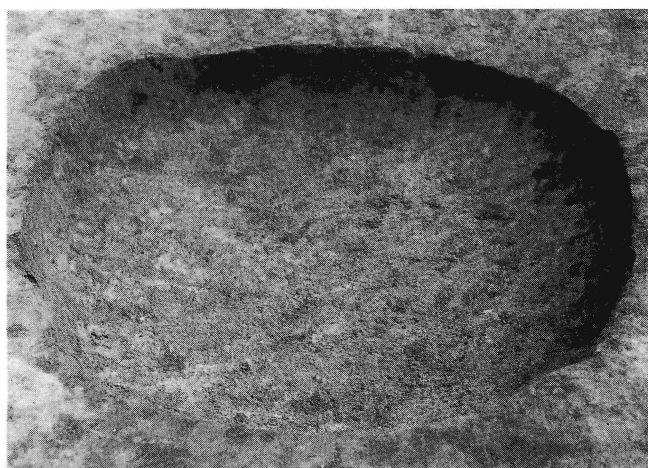
調査区近景



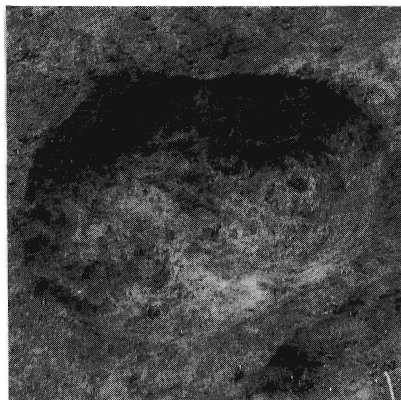
発掘調査風景



古墳時代76号住居跡



83号土坑



84号土坑

報告書抄録

| ふりがな | しきしいせきぐん | | | | | | | |
|------------------|--|----------------|-----------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|---------------------------|------------|
| 書名 | 志木市遺跡群 VI | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | 巻次 | | |
| シリーズ名 | 志木市の文化財 | | | | | 巻次 | 第15集 | |
| 編著者名 | 尾形 則敏 | | | | | | | |
| 編集機関 | 埼玉県志木市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒353 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 0484 (73) 1111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 1995(平成7)年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コ ー ド | | 北 緯 (° ' ") | 東 経 (° ' ") | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| なかのいせき 中野遺跡 | しきしかしわちよう 志木市柏町 1丁目1509-6 | 11228 | 002 | 35° 49' 48" | 139° 34' 34" | 19930804 ~ 19930819 | 365.14 | 個人 専用住宅 |
| たごやまいせき 田子山遺跡 | しきしほんちよう 志木市本町 3丁目1815-2・3 | 11228 | 010 | 35° 49' 38" | 139° 35' 10" | 19930830 ~ 19930910 | 238.05 | 個人 専用住宅 |
| しろやまいせき 城山遺跡 | しきしかしわちよう 志木市柏町 3丁目1137-7・8 他 | 11228 | 003 | 35° 49' 45" | 139° 34' 18" | 19931224 ~ 19940117 | 100.38 | 個人 専用住宅 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 中野遺跡 | 集落 | 古墳時代後期 | 住居跡 1軒 | 土師器 鉄鏃 砥石 | | | | |
| 田子山遺跡 | 集落 | 古墳時代後期 平安時代 | 住居跡 1軒 | 土師器 須恵器 布目瓦 | | | | |
| 城山遺跡 | 集落 | 古墳時代後期 時期不明 | 住居跡 1軒 土坑 2基 | 土師器小破片 なし | | | | |

志木市の文化財 第21集

志木市遺跡群 VI

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

発行日 1995(平成7)年3月31日

印刷 梅田印刷株式会社